



静岡市三保松原文化創造センター「みほしるべ」

臨時駐車場

会場へのアクセス

アクセス：【JR 東海道線】
JR 清水駅から三保方面行きバス約25分
「三保松原入口」下車徒歩約15分
【静岡鉄道】
新清水駅から三保方面行きバス約20分
「三保松原入口」下車徒歩約15分
「世界遺産三保松原」下車徒歩約5分
【車】清水ICから約25分
静岡ICから約35分

駐車場：臨時駐車場 約100台
※当日はみほしるべの駐車場は利用できません。
ご来場の際は、必ず臨時駐車場をご利用ください。
※雨天会場には駐車場の準備がありませんので、予めご了承ください。

〈雨天時の会場〉
静岡市清水文化会館マリナート
所在地：静岡市清水区島崎町 214 番
アクセス：【JR 東海道線】
JR 清水駅みなと口（東口）下車、徒歩 3 分
【静岡鉄道】
新清水駅下車、徒歩 10 分

当日の会場の確認・お問い合わせ
（雨天時は当日 11 時に会場を決定します）
▶静岡市コールセンター TEL：054-200-4894

みほしるべ

MIHO 静岡市三保松原文化創造センター
SHIROBE Shizuoka City Miho no Matsubara Culture & Creativity Center

三保松原の歴史や羽衣伝説、松原保全など、映像シアターや展示でわかりやすく紹介する年中無休の施設です。エレヌ・ジュグラリス夫人の写真や使用していた能面など、貴重な資料も展示しています。また、ミュージアムショップでは松葉を使ったしおりや入浴雑貨といった、三保松原ならではのグッズを販売しています。

所在地：静岡市清水区三保 1338-45
TEL 054-340-2100
開館時間：9:00 ~ 16:30（年中無休）



三保松原公式



第41回 羽衣まつり

10月12日(土)

13時00分～19時30分（終了時刻は目安）

場所 静岡市三保松原文化創造センター「みほしるべ」前広場
（雨天：静岡市清水文化会館マリナート）

三保羽衣薪能 開演 16時30分 終演 19時30分頃

能「羽衣替之型」 シテ 伊藤真也			
狂言「寝音曲」 シテ 三宅近成			
能「通小町」 シテ 櫻間右陣			

鑑賞券発売開始 令和6年 8月1日(休) 10時より

〈発売場所〉 全席指定 一般 5,000円 22歳以下 2,000円
お近くのセブンイレブンでも直接お買い求めいただけます。

・チケットぴあ (Pコード 528-000)

※小学生未満のお子様連れの入場はご遠慮ください。 ※ペット連れのお客様の入場は固くお断りいたします。
※上演中、降参等により中止する場合がございますが、1 演目終了後は払い戻しいたしません。

〈問い合わせ先〉
羽衣まつり運営委員会事務局（静岡市役所文化振興課内）
TEL 054-221-1040
羽衣まつりホームページ <http://www.hagoromo-fes.com>

主 催：羽衣まつり運営委員会 特別協賛：株式会社清水銀行・鈴与グループ・はごろもフーズ株式会社
後援：静岡市、静岡市教育委員会、在日フランス大使館/フランス文化センター、静岡県、静岡県教育委員会、静岡市文化協会、(公財)静岡市文化振興財団、静岡県文化協会、公益財団法人静岡県文化財団、静岡県能楽協会、朝日新聞静岡総局、毎日新聞静岡支局、産経新聞静岡支局、産経新聞静岡支局、中日新聞静岡支局、静岡新聞社、静岡放送、テレビ静岡、静岡朝日テレビ、静岡第一テレビ、K-mix、マリンバール 76.3、76.9FM-H!!

ON STAGE SHIZUOKA まちは劇場

第41回 羽衣まつり

羽衣まつりでは、プロ能楽師による薪能公演だけでなく、地元の団体や子どもたちも能を披露します。静岡市にゆかりのある伝統芸能を通じたイベントに是非足を運んでみてください。
(雨天時には変更又は中止となる場合があります)

第41回 三保羽衣薪能

世界文化遺産富士山の構成資産であり、古来より景勝の地として知られる「三保松原」。天女が舞い降りたとされるこの地で、静岡市三保松原文化創造センター「みほしるべ」を背景に上演される薪能は、他に類を見ない組み合わせであり、日本随一です。この地でしか味わうことのできない幽玄な世界をお楽しみください。



上演曲目のあらすじ

三保こども能楽、しずおか・三保羽衣謡隊



【時間】 13:00~14:00
【場所】 静岡市三保松原文化創造センター「みほしるべ」前広場
(雨天：静岡市立清水第五中学校体育館)

総合的な学習において能楽を学ぶ静岡市立清水第五中学校の生徒及び謡隊の皆様が日頃の成果を発表します。

エレーヌ夫人顕彰式



【時間】 14:30~15:10 (雨天:中止献花のみ)
【場所】 「羽衣の舞」の奉納：静岡市三保松原文化創造センター「みほしるべ」前広場
献花：三保松原 エレーヌ碑前

エレーヌ・ジュグラリス夫人顕彰のための「羽衣の舞」奉納と献花を行います。

能「羽衣 替之型」

春霞のたなびくある日。三保の松原に住む白竜という漁師(ワキ)は、浜辺の松の枝に美しい衣の掛かっているのを見つけます。家の宝に持ち帰ろうとすると、一人の女(シテ)が呼び止め、それは天人の羽衣なので、容易く人間に与える物ではないと言います。白竜はそれならば国の宝にしようと言って返そうとしますが、天女は、羽衣がなければ天上へ帰ることができないと歎き悲しみます。その悲嘆にくれる姿を哀れに思い白竜は衣を返します。天女は喜び羽衣を身に纏うと天上界の舞楽を奏で三保の景色を表します。袖を返して舞い上がり、愛鷹山や富士山の高嶺を越えて行き、霞に紛れて姿を隠します。



能「通小町」

洛北八瀬の里に住む僧(ワキ)のもとへ、木の実や薪を毎日届ける女(前ツレ)がいます。ある日、名を尋ねると、市原野のあたりに住む姥と答え、甲いを頼み消えてしまいます。僧が市原野を訪ね甲を始めると、小野小町の霊(後ツレ)が現れ、甲を喜びます。ところが、その後を追って深草少将(シテ)がやつれ果てた怨霊の姿で現れ、小町が成仏するのを引き留めます。生前、恋の百夜通いをして思いを遂げられなかったと、その恨みを僧に物語ります。連綿たる少将の果たせぬ思いは、死後も続いていた地獄の苦しみから、僧の甲いのうちに執心を離れ、小町とともに成仏します。



狂言「寝音曲」

主人(アド)に謡を所望された太郎冠者(シテ)は、酒を飲み、妻の膝枕がないと声が出ないと偽ります。主人が酒を振るまい、膝枕をしたりして謡わせますが、太郎冠者は寝ている時は謡えるが起きている時は声が出ないふりをし始めます。そうして何度も寝かせたり起こしたりするうちに太郎冠者は調子に乗っていきますが…。



※会場では、携帯電話・タブレットの使用、撮影、録音などはお断りいたします。